

「中央アジアのコリアンを訪ねる旅」 むくげ通信 240号、2010.5

「カザフスタン、ウズベキスタン」 飛田雄一

カザフスタンとウズベキスタン、その位置関係もよく分からないぐらいだった。が、行ってきた。すばらしかった。

4月30日から5月8日まで9日間、神戸学生青年センターのツアーででかけた。私は団長兼ツアコン、なにしろ初めての国で不安いっぱいだった。が、少々不十分な燻製サンマを食べたことが原因による？体調不良者を出したが、大きなトラブルもなく全員無事に戻ってきた。メンバーは男性8名、女性3名の11名。むくげの会からは、飛田のほか堀内、山下夫妻が参加した。



飛行機で勉強しました

1937年、スターリンによって当時沿海州にいた17万人の朝鮮人が強制移住させられたが、その子孫が現在もカザフスタンに10万人、ウズベキスタンに15.6万人暮らしているのである。その朝鮮人を訪ねる旅が実現したのだ。

1991年9月、当時ソ連の朝鮮人歴史学者・ゲルマン・キムさん（以下敬称略）が神戸を訪ねむくげの会とも交流した。当時東京の現代語学塾レーニンキチ（レーニンの旗）を読む会が出版した『在ソ朝鮮人のペレストロイカ』（1991.7、凱風社）の出版記念会に招かれたゲルマン・キムが神戸も訪問してくれたのである。講演会、宴会、ウトロ見学、ロシア料理店などなど神戸で過ごされた。ゲルマン・キムは韓ソ国交樹立（1990.9）後に、ソ連で初めてソウルに派遣された学者で、その時の6か月のソウル滞在で韓国語も取得された。神戸での講演会するとき、彼はロシア語、ドイツ語、英語のどれかで講演したいとのことだった。そこで、神戸外大ロシア語で堀内さんと同級生で、ロシア語で仕事をしているMさんに通訳をお願いした。複雑な歴史の通訳は難しいものがありロシア語、英語、朝鮮語チ

ャンボンの大変な講演会となったのだ。さぞ彼にはフラストレーションがたまった講演会であつたろうが、彼との交流はこのようにして始まったのである。

『むくげ通信』128号（1991.9）に私は「在ソ朝鮮人歴史学者・金ゲルマン氏を迎えて」を書いているが、その末尾はこうだ。「遠い存在であつた中央アジアの朝鮮人が金ゲルマン氏の来神により、急に身近なものとなった。わたしの心は、もう、カザフ共和国のアルマータに向いている。近い将来、そこを訪ね、わが『通信』にも旅行記を是非かかせてもらいたいと思っている。」

その後、ソ連は崩壊し、カザフスタンも独立した。独立後のカザフスタンでカザフ語を使えない学者・ゲルマン・キムはどうしているのだろうかと思いをもんでいた。カザフスタンからロシアに移住する朝鮮人が多いと聞き、またカザフ語のできない学者は地位を奪われるのではないかなどなど、考えたのである。

そして、2008年、ゲルマン・キムは再来日した。大原社会問題研究所と北海道大学スラブ研究所が6カ月ずつ彼を研究員として招待したのである。2009年2月、私は札幌に出かけて再会を果たした。カザフ人の奥様・ザリーナさん（以下敬称略）も一緒だった。李景珉さんら札幌のメンバーとの会食会はとても楽しいものだった。そして、ゲルマン・キムと私は二度目のカザフスタン訪問の約束をしたのである。このときもたくさんビールを飲んだが、約束はきちんと覚えていたのである。

のちのメールでのやりとりで、時期を2010年のゴールデンウィークに決定。旅行社との折衝などを進めた。韓国、中国のツアコンは慣れているとはいえ、初めての国、カザフスタン、ウズベキスタンはまったく様子が分からない。ある旅行会社にプランを組んでもらい、そのプランで複数の旅行会社から見積もりをとったりした。結局、株式会社みずほトラベル企画（野津さん）と組むことになった。（ある旅行会社さん、ごめんなさい）

どのルートでいくのか？ どうも2つの方

法があるようだ。

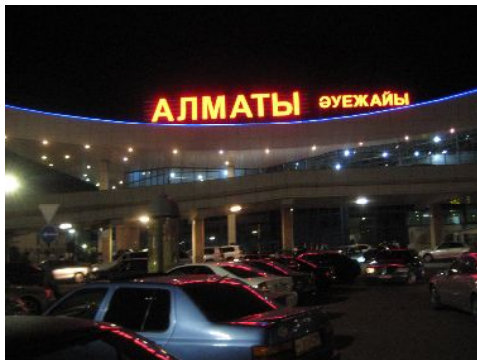
① 関空から仁川経由でカザフスタン・アルマティ（アジアナ）→ウズベキスタン・タシケント（ウズベキスタン航空）→仁川、関空（アジアナ）

② 関空→タシケント→アルマティ→タシケント→関空（すべてウズベキスタン航空）

②の方が費用的には安かったが、行ったり来たりで日程的にもきつい。なにはともあれ、まずはアルマティへ行ってゲルマン・キムに会わなければ不安だ。で、①となった。

次はビザ。私は、旅行社に申請書類をつくってもらったが、東京の大使館には自分で送る。行きは書留郵便、返信は、クロネコヤマトの着払い宅急便だ。不安だが大使館の指定だから仕方がない。それぞれ 10 日間ぐらいで返送されてきた。

入国書類などをみていると少々ややこしそうだ。カザフスタンはロシア語の入国カードしかなくように書いているし、ウズベキスタンでは、3000 ドル以上とかに関係なく金額を正確に申告しなければならないとか書いてある。ツアコンの私は結構なドルを持参するので多々不安……。が、出発した。



アルマティ空港につきました

4月30日（金） 成田発の佐野通夫さん以外の 10 名が 10:45 関空に集合。アジアナ航空 111 便で 12:50 仁川空港。佐野さんと合流して最初のビールで結団式をして 18:10 同 107 便で 21:50 アルマティ。時差は 3 時間で、実質 6 時間 40 分だ。緊張した入国手続きも無事終わったが税関で少々もたもたした。最後には仕切り線を突破したゲルマン・キムが登場してくれて（大学教授の証明書が威力を発揮？）通過した。最後の最後でここでは預け入れ荷物の引換券がないと外に出られないとまた少々トラブルもあった。

ザリーナとも久しぶりのあいさつをして、

チャーターバスでホテルに向かった。今回の旅行は、ホテル、バス等の手配は、ゲルマン・キムのかわりにすべてザリーナがしてくれたのである。

ホテルは、アルマティホテル。物価は、カザフスタンがウズベキスタンの 2 倍とのことで、ホテルのランクは最後に少し上げて、5 つ星のカザフスタンホテルではなくて、4 つ星のこのホテルとなった。



4000M級の山がひかっています。ホテルから

5月1日（土） 朝ホテルの窓からは天山山脈の 4000M級の雪をいただいた山並みが見える。うれしい。のぼりたい！！

いよいよ行動開始だ。朝食はホテルで、オートミールばいお粥。少々甘い感じ。じゃがいものパン？は美味。でも、翌日からは洋食的にもらった。



朝からはしゃいでいます

朝食後、まずはホテルの前の公園を散歩。緑の多いいい雰囲気の街だ。この日は、現在はメーデーではなく「民族統一の日」で休日。街のあちこちでいろいろな行事が行われている。

メイン会場では、民族ごとのブースがある。コリアンのブースでは、キムチ、チジミなど

が振舞われていた。もちろんお酒もあった。舞台では様々な音楽が演奏されている。アリランも流れた。



緑のきれいな公園



フェスティバルのこども、かわいい！！



朝鮮人＝コリョサラムが声をかけてくれました



コリアンブースです

午後、コリアンハウスを訪ねた。ソウルにあるコリアンハウスとは違う。実業家でもある高麗人協会の会長がビルを購入し、1階に

レストランなどテナントを入れ、2階が協会の施設だ。多くの部屋があり、踊りの練習、朝鮮語講座、高麗日報編集室などがある。この協会の副会長はゲルマン・キムだ。ここで、施設案内をしていただいたのち、ゲルマン・キムの講演を聞いた。英語の講演で、通訳はメンバーの佐野通夫さん。本当に最後まで朝鮮語、英語の通訳をありがとうございました。



コリアンハウス



「高麗日報」最新号をいただきました



ゲルマン・キムさんの講演です



イスラム寺院の時計？ お祈りタイムです



民族楽器博物館



ミニコンサートを開いてくれました

夕方、カザフ民族楽器博物館を訪問した。展示もよかったが、ギャラを払うと私たち 11 名のためのミニコンサートもしてくださった。

男性のタングラの演奏のあと、ガイドの女性も衣装を着替えて演奏してくれた。オカリナ？もあった。さらに近所のゼンコフ正教教会にでかけた。ミサが行われていたがその讃美歌のステキなこと。聞きほれた。



すてきな讃美歌のゼンコフ正教教会



ラクダに乗りました。最初落ちそうになりました



ゲルマン・キムお勧めの韓国料理店「ドテム」

5月2日(日) きょうはバスで長旅だ。アルマティ北方 350 キロの「ウストベ」で、5000 Kを強制移住された朝鮮人が最初に放り出されたところだ。この 350 キロ、5 時間の旅だが、途中 2 つの街があっただけのツンドラの広野だ。ときおり放牧されている羊などをみるだけだ。



このスピードガンにつかまりました。50ドルです。

かわいそうな運転手にチップをあげました。



校長先生とのツーショットです

まずウストベ郊外の朝鮮人小学校を訪問し

た。ゲルマン・キムも卒業したところだ。日曜日だったが校長先生が案内に出てきてくださった。ここには韓国のモルモン教の語学教師が派遣されていた。

そしてウストベ駅。朝鮮人がシベリア鉄道のおそらくノボシビルスク駅から南下して連れてこられたところだ。駅構内の食堂で韓国料理をいただいた。昼食後、記念碑と墓地のあるところに案内していただいた。12歳のときに強制移住を体験されているチョンさんも同行してくださった。当時最初に穴を掘り簡単な屋根？をつくって寒さをしのいだところにロシア語と朝鮮語で記念碑が建てられている。その荒野を朝鮮人が開拓し米を栽培したのだ。



朝鮮語とロシア語の記念碑があります。
「ここは遠東(極東)から強制移住された高麗人たちが 1937 年 10 月 9 日から 1938 年 4 月 10 日まで穴を掘って生活した初期の定着地である」



チョンさんが当時のことをお話してくださった



この方は 18 歳のときにカザフスタンに来ている



墓地で、ゲルマン・キムさん

記念碑と墓地がある。墓地はソ連式のものだが、今も朝鮮式に葬儀が行われているとのこと。土まんじゅう式のものもある。このあたり、今は農地となっているが、朝鮮人が開拓したものだ。カザフスタン共和国独立後は土地の売買が自由に行われ、朝鮮人の土地も少なくなっているとこのことだ。チョンさんは記憶もしっかりされていて、移住当時の話をしてくださった。



チューリップはカザフスタンが原産地です。
これが原種です。

5月3日(月) 午前中、国立中央博物館を見学し、午後には市内から北へ 15K、海拔 1520~1750M のスケートリンクへ、滑らずに更に山の大きな砂防ダムまでバスで登った。あいにくの天気で、結構寒い。ザリーナ持参のウオッカを飲んだ。

昼食はカザフ的なパオで昼食、馬乳酒、羊乳酒を飲んだ。どちらかがおいしかった……。



パオで昼食です

夕方、今度は、ロープウェイでコクドベに登る。頂上には遊園地もある。

さらにロシア正教の教会にもいくが、ここでも讃美歌も聞きほれた。男性の神父ひとりと女性2名だけのようだったが、ハーモニーがとてもいいのだ。

5月4日(火) バザールで楽しい物見遊山をしたのち、ゲルマン・キムの働くカザフスタン大学へ行った。東洋学科で、日本語学科、朝鮮語学科の教師、学生と交流をした。それぞれに日本語、朝鮮語を上手に話していた。JICAより派遣された日本人の鈴木先生もおられた。カザフ人は日本人のように最初から愛想笑いなどしないが、とても気さくな民族、一方、ウズベキスタン人は日本人的？で愛想がいい。これは遊牧民族＝カザフと農耕民族＝ウズベクとの違いか、などなど、なるほどそんな見方があるのかと思った。



バザールの豚たち



馬も牛なみに・食べるようです



カザフスタン大学での交流

JICAのカザフスタンセンターも訪問し

た。急な訪問だったが三苦所長が時間をとってくださりお話をしてくださった。「事業仕分」で大変だろうが、珍しい我々11名の訪問が少しはお役？にたてばいい……。



日本センター前で日本語勉強している高校生と

5月5日(水) 12:50 飛行機でウズベキスタンのタシケントへ。13:40 着、時差1時間で実質2時間のフライト。ソ連製のシンプルな飛行機だった。機内アナウンスがなく、一所懸命入国書類をかいいていたら、着陸した。

ウズベキスタンは入国手続きが厳しいと聞いていた。税関では所持金をすべて申告せよとのこと。××ドル、××円と正直に申告した。2枚の申告書を提出しその1枚にハンコを押してもらって返してもらう。出国時に再度1枚の申告をしてその2枚を比べるということだ。実際、そのようなことはなかったが、ウズベキスタン国内でお金が増えていることが発覚したらそれは没収されるとのことだ。

タシケントについて遅い昼食。きれいはレストランだ。支払いは当然現地通貨のスマ。その前に両替したが、公定ルートは1ドルが1500スマ。その他？では、2000スマとのことだ。5000ドルを交換したら100万スマ、1000スマ札が1000枚。この1000スマ札が最高額のお札で、普通の財布では持ち運ぶことができない。「ウズベキスタンではレストランの計算に5分かかる」とはゲルマン・キムの言葉だが、実際時間がかかった。

タシケントを案内してくれたのは、大学助手のヨン様のようにかっこいいコリアンのミーシャ。ゲルマン・キムの友人のウズベキスタンの大学教授の弟子だとのこと。英語ができるのでガイドをしてくれたのだ。朝鮮語は勉強中とのことだ。

彼の案内で、ティムール（自由）広場を散策。緑がきれい、花壇がきれい。彼は我々が希望した地下鉄にも乗せてくれた。プーシキン駅など3つの駅で降りてみたが、それぞれ

雰囲気がいい。残念なことに撮影禁止とのことで写真がない。ウズベキスタンの方はカザフスタンに比べると、旧ソ連的で？窮屈な感じだった。



5月6日(木) イスラム神学校を訪問した。カザフスタンはウランとともに希少金属がとれてウズベキスタンに比して裕福だという。一方、ウズベキスタンは鉱物資源がないが、裕福でない分、開発が進んでいなくて古い建物が残されている。シルクロードらしい建物はカザフスタンには少ないがウズベキスタンにはたくさん残っているとのことだ。



ひろ～い広場なのでなんとか写せます。堀内さんです。

最初に行った神学校は2階が寄宿舎と教室、1階では民芸品の製作販売をしていた。ウズベキスタン独立後、イスラム神学校を政府が積極的につくっているが、その理由は外国で神学教育を受けてテロリストになられては困るからだと聞いた。

バザールにでかけた。すごい規模だ。肉、野菜、果物、食器なんでもある。この地方の小麦はパンの材料として優れているが美味しそうなパンもたくさん売っていた。たしかにいろんなところで食べたパンはすべて美味しかった。バザールは露店の面積が広いが、直径6～70Mのドームもある。1階にはありとあらゆるものがあり、大きな吹き抜けを囲む2階は、なんとすべてドライフルーツ売場である。2～300軒もあるかもしれない。売り込みも激しい。購入もしたがそれ以上に？みんなたくさん試食をした。

午後、コリアンコルフォーズにでかける。ソ連時代のコルフォーズがまだ残っているのかと驚いたが、合同農場をいまでもコルフォーズと呼んでいるようだ。ここは沿海州のコルフォーズが強制移住によってそのままタシケントにもそのコルフォーズがつくられたので

ある。その5代目のリーダー・キムピョンファ博物館があった。案内をしてくれたチャン・エミリヤ・アンドレさんは、朝鮮語の良くてできる方で、ご主人は生後半月で強制移住させられた方だ。キムピョンファの銅像が以前、広場にあったがウズベキスタン共和国独立後にこのコリアンコルフォーズに朝鮮人以外が増えてきて、その銅像も広間から現在の博物館の敷地内に移されたとのことだ。博物館の前には水路が開かれている。このような水路を朝鮮人がつくり、それによってこの地が農地にかわったのだ。博物館には強制移住後にこの地に作られた幼稚園の写真もあった。案内してくださったチャンさんもこの幼稚園に通ったとのことだ。



キムピョンファ博物館「この地に私は新しい祖国を探した」



コリアンが作った水路を牛が渡ります

チョンさんは大サービスで自宅にも案内してくださった。おみやげに畑のサンチュ（野菜）を刈っておみやげにくださった。それは、夕食のコリアンレストランでいただいた。



5月7日(金) 旅の最終日だ。ホテルをチェックアウトし、バスででかけた。韓国政府が設置している韓国教育院を訪ねた。所長のキム・ジュンスクさんは、初対面は日本人が11人もなんで来たのという雰囲気だったが、それなりに我々が朝鮮語で説明したりしたら、感動？してくださったようで、館内の案内、

パワーポイントによる活動紹介をパワフルにしてくださった。



韓国教育院所長と記念写真



後ろの絵、イスラム圏なので覗いているのは鹿

JICAのタシケント日本センターも訪ねた。すでにアルマティ日本センターの三苦さんが連絡をしてくださっていた。短い時間だったが、米田所長が施設の案内やウズベキスタン事情について話をしてくださった。

歴史博物館でカザフスタンに帰るゲルマン・キム夫妻と涙の別れをして、私たちは歴史博物館に入った。2,3世紀ごとに他民族に征服されたウズベキスタンの歴史を垣間見た。



博物館のガンダーラ仏

タシケントには戦後に抑留された日本人が工事にたずさわった道路、建築物があるが、そのひとつオペラ劇場に行った。その劇場は1963年のタシケント地震のときにも崩壊しなかったが、そのことで日本人の建築技術が

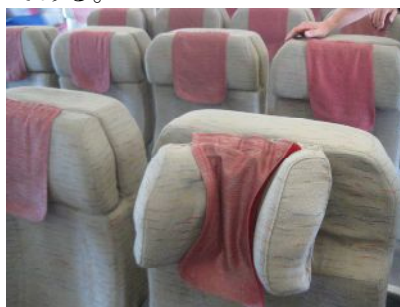
評価されたという話がある。日本人が工事に携わったという銘版もある。しかし、いやそうではない、日本人にそのような煉瓦積みの技術はない、それ以前にほぼ完成していたという説もあるようだ。そのオペラ劇場は毎夜ダンスやオペラが上演されている。外からみたらほんとに立派な建物で入ってみたかった。

そして、ウズベキスタン最後の夜は、南大門というコリアンレストラン。その看板にはどういう訳か、着物姿がある。タシケントの日本人は100名ほどで食事にはコリアンレストランを良く利用するとのこと。そこで日本料理をだすと喜ばれてもうかるのだという。でもウズベキスタンの一般の人々には、韓国と日本の違いもあり分かってないのではないかなと思う。

そして、22:20 タシケント空港からアジアナ航空 112 便で仁川へ、08:50 予定通り到着。時差は4時間、実質6時間半だ。仁川空港でウロウロして、関空組は10:00 アシアナ航空 112 便で11:40 無事到着となった。佐野成田組も無事到着となった。

11名の珍道中、ゲルマン・キム夫妻には本当にお世話になった。事前のお願いは、①中央アジアのコリアンのことを知りたい、②二度と行けないと思うのでシルクロードの中央アジアも満喫したい、だった。無理なお願いにもかかわらず充分に私たちの要望にそって旅を企画してくださった。感謝感謝だ。

二度と行けないとも思うが、このレポートを書きながら、また行ってしまいそうな気がするのである。



アシアナ航空の座席、枕になるの知っていますか？

※フィールドワークノート、A4、40頁があります。希望者は、送料とも400円(80円切手5枚)をむくげの会までお送りください。7月7日(水)18:30～、神戸学生青年センターで報告会を開きます。釜山に来られるゲルマン・キムさんをその会にお招きする予定です。